



五十年を顧みて前進を誓う



発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

前会長さんも私達のとつとめ方を観ています

来年度の1月26日、教祖140年祭がおぢばで勤められます。優しいおやさまのお心にお応えする為、私達も歩み続けましょう。昨年、文雄前会長さんは、ご自分の命を使つて私達に、誰かの為、必死にとつとめを勤める姿勢を仕込んで下さいました。今年8月30日(土曜)午前11時より、前会長さんの一年祭を執り行わせて頂きますが、改めて、日々のおつとめに魂を込め、前会長さんにも心の成人した私達をご覧頂きたいと思ひます。

「感謝、お掃除、種まき」と、前会長さんが晩年よく仰いました。私はこれを、「過去、現在、未来」と悟らせて頂きます。「過去の経験に感謝し、現在の心を掃除して、未来へ誠の種を蒔く。」と。前会長さんに「それでよろしいでしょうか?」と尋ねつつ。今も教会のあちこちに目をやると、その場所の前会長さんが人と話しておられた風景が蘇ります。「用事がある事は有難いなあ、行く所があるのは幸

せだなあ。年寄りこそ「教養(今日用)」と「教育(今日行く)」が大事だなあ。」と、そのお顔は青空のように笑つておられます。

「心で『おやさま』と何度も唱え、そうして温めた心で人と出会いましよう。身近な人とは是非お付き合ひをして下さい。それが『匂いがけ』になります。話を聞いてあげて下さい。それで救われる人が大勢いるんです。聞かせて頂くという低い心で聞けば、人様の心を『頂ける』。それだけで『おたすけ』になります。生かされている事を喜べるなら、貴方には良い香りがあります。おぢばの香りです。生きている喜びでなんでもさせて貰いましよう。それが『日の寄進』です。貴方の姿を親神様が見ています。貴方にこそ幸せになつて頂きたい。」

前会長さんのような言葉を真似してみました。

共に感謝、お掃除、種まきで、幸せにならましよう。

大教会長 藤田大和

お知らせ

みちのだい育み塾 7月22日(火) 10時

夕張団こどもおぢばがえり 27~30日

夏のこども会 8月11日(月祝)

大教会八月月次祭 15日(金) 9時30分

藤田文雄前会長一年祭 30日(土)

六月月次祭の様様

6月に入り、北海道は蝦夷梅雨と言ふべきか、雨が降つたり止んだりが続き、グズグズした天気の日が多かつた。その中でも晴れ間が見えると一気に気温が上がリ、夏の到来を予感させる日差しが降り注ぎ、夏日を記録する日も少なくなかつた。

迎えた15日の祭典日は、朝から雲が広がり、少しどんよりとした空模様であつた。しかし気温は25度近くまで上がり、少し蒸し暑さを感じる中での月次祭となつた。この日は日曜日ということもあり、子ども連れの参拝者が多く、教会内は子どもの声で賑やかとなつた。定期9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。祭文にて大教会長は、五月に開催された少年会総会、また六月に開催予定の婦人会総会、青年会総会に触れ、改めて各会挙げての育成・丹精に突き進んでいく旨を親神様・教祖にお誓ひ申し上げた。その後、座りつとめ十二下りのてをどりが勤められた。勇んだおつとめの熱気を拡散する

天理教少年会本部 縦の伝道講習会

教祖にお喜びいただく思いで 幸せの道を



祝梅分教会長
少年会本部 研究員

講師 高橋太志

お話の全文は
HPで閲覧でき
ます



(1ページより続き)
ように、殿内では大きな扇風機を2台回していた。

おつとめ終了後、直ぐに御礼の参拝がなされ、小休憩の後、縦の伝道講習会が開催された。講師には少年会本部研究員を務める、高橋太志役員が立ち、縦の伝道と少年会活動の重要性、育成会員の役割と通り方について話され、集まった参拝者はそれぞれも育成会員であることを再認識して、真剣に耳を傾けていた。

終了後には少年会員を含めた献饌・お下がり作りが行われ、ホールでは女子青年のコーヒーショップが出版していた。また講師を囲んで少年会メンバーによる講習会の振り返りが行われ、講話を聞いての感想や今後の取り組み方について熱心な対話が繰り返し行われた。

けでなく、次の世代、さらにその次の世代もまた、神様が必要とされている「道具」なのです。

私の両親は、決して裕福ではない生活の中で、常に神様のお話やおたすけ、ご守護の話をしてくれました。特に母は「かしものかりもの」の話を繰り返し聞かせてくれました。当時は「しつこいな」と感じたものですが、今思えば、それが信仰の喜びを伝えようとする両親の姿だったのだと強く感じます。私自身も、この信仰の喜びを伝えられ、次の世代へと伝えようと日々努力しています。

本日、少年会本部研究員として、皆さまにお話しさせていただきました。親として、また大教会や少年会の「団」「隊」の一員として、皆さまは「育成係」という大切な役割を担っています。少年会員は0歳から15歳までですが、それ以上の年代の方は「育成会員」として、この縦の伝道に関わっていただいています。

私たちの信仰は、先人たちが身上や事情を通して親神様のお話を聞き、ご守護をいただいで深めてきたものです。そして、その信仰の喜びを子や孫へと伝え、皆が幸せになることを願って受け継がれてきました。これが「縦の伝道」です。親神様は「いんねんの魂、神が用に使おうと思召す者は、どうしてなりと引き寄せろ」とお教えくださっています。私たちが

心に留め、子供を育てていらつしやるのではないのでしょうか。また、「世界はこのぶどうのような、皆丸い心でつながり合うていくのやで」

という教祖の教えを通して、一人ひとりが「丸い心」、つまり仲良く助け合うことの大切さを子供に伝えていらつしやると思います。これは、親として、また育成として、子供や周囲の人々と接する上での基本であると考えます。

「めいめいに心違うで」とおふでさきにある通り、親子であっても、夫婦であっても、兄弟であっても、一人ひとりの考え方、感じ方は異なります。だからこそ、信仰の喜びを伝えることは大変難しいことであると私は思います。また、「天の定規」という逸話篇に、「世界の人が皆、真つ直ぐやと思うていることでも、天の定規にあてたら、皆、狂いがありますのやで。」とお教えくださったお話があります。私たちが信仰していく中で正しいと自信を持っていることも、もしかしたら天の定規からすると、少し隙があるのかもしれない。そう思えば、私たちも、もつともつと成人させていたただく努力をしなければなりませんし、謙虚な気持ちで子供さんたちの意見も聞かなければなりません。そして、子供さんたちが納得してくれるまで、繰り返し繰り返し話をしていくことが

大切ではないかと考えております。本来、縦の伝道の主軸は「親」です。私自身も子育てを通して「育児は育自」という言葉を実感し、親として成長させていただいたと感じています。しかし、親も忙しい中で、常に信仰の話をすることは難しいかもしれません。真柱様は「教会に関わっている時間とそれぞれの家庭にいる時間と比べたら、家庭にいる時間の方が長い」と述べられ、家庭での働きかけの重要性を強調されています。だからこそ、教会は子供たちが集まり、

教えを学ぶ場として、また親が正しく教えを伝えられるように助ける場として、大きな役割を担っています。縦の伝道の主軸は親ですが、周囲の方々も協力し、信仰の喜びを子供に伝えていくことが重要です。

教会での少年会活動は多岐にわたります。お泊まり会や一日少年会、ひのきしんなど。これらの活動を通して、子供たちが教会に「居場所」を見つめることが非常に大切です。居心地が良く、落ち着き、自分に役割があると感じられる場所に積極的に声をかけ、彼らにとつてかけがえのない存在となつていただきたいと思います。

今年の少年会本部の活動方針は、「教祖のひながたを目標に教えを

践し、子供に信仰のありがたさを伝えよう」であります。この主語は「育成係」だと思います。育成係が教祖のひながたを目標に教えを実践し、育成係が子供に信仰のありがたさを伝えていくことではないでしょうか。私たちがまず「ありがたいな」と思うこと、それが必ず子供に伝わっていくものと信じています。重点項目として、「子供に教祖のお話をしよう」「教会お泊まり会、教会子ども会を実施しよう」「地域で少年会ひのきしんを実施しよう」が挙げられています。再開3年目となる「子どもおちばがえり」は、年祭活動最後の年でもありますので、一人でも多くの子供さんがおちばに帰り、おちばがえりの喜びを味わっていただきたいと願っています。子供さんが帰れなかった時には親や会長さんが代わりにおちばへ帰り、おちばがえりの喜びを味わっていただければ幸いです。

力し合うことで、より大きなことが出来るのだと実感しています。身上や事情もまた、信仰を深め、成人させていただく機会です。その時は苦しくても、後になって「なるほど」と思えたり、その中に喜びを感じることもあります。どうか、身上や事情はお荷物ではないのだということを皆さまの心に留め、子供さんたちとお付き合いをしたり、励ましてあげていただければと願っています。真柱様は、育成係に対して「時には子供の態度に苛立ったり、腹の立つこともあるかもしれませんが、だからと言って、そのまま放っておいては育つものも育たなくなってしまうから、自分の心を治めてください」とお言葉をくださいました。真柱様も私たちの気持ちを分かってくださっているのだと思います。私たちが苛立ってしまったのは信仰の喜びは伝えられませんが、繰り返しては避けたいです。最後に、私自身が心に留めていた詩「存在」を紹介します。

存在を証明するために無理して頑張る。張って生きているとふと忘れてしまふ。う事がある自分が存在(いる)というだけで誰かのこころをあたためていることや誰かの生きる支えになつていくということ。私たちも皆、心が折れてしまう時があるかもしれない。しかし、私たちの存在は必ず誰かの心を温めることのできる存在であり、誰かの生きる支えになつていくと信じています。信仰から考えると、私たちは教祖の道具衆であるからこそ、陽気ぐらしをするためにそのような存在を与えられているのだと思います。婦人会、青年会、少年会からの提言「家族ぐるみで教会に参拝しましょう」にあるように、各会が連携し、少年会員やその後の若い方々がそれぞれの活動に参加できるように促し、信仰を伝えていきたいと思います。

昔の天理時報に載っていた言葉。「幸せを選んでください。人生の中で出会った皆さんの分かれ道その時、幸せにつながる道を選んで下さい。『教祖にお喜びいただくにはどうしたらいいだろうか?』という心の物差しを選んで、幸せの道を歩きましょう。』私は何かあった時に教祖にお喜びいただくという思いで選択し、日々努力しております。

第41回青年会 夕張分会総会



鈴木寿男 委員

どうぞこれからも、縦の伝道、少年会活動にご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。



夏が目前と迫る6月28日土曜日。青年会本部より鈴木寿男委員をお招きし、第41回青年会夕張分会総会が開催された。今回は分会委員長交代後、初めて開催される総会となる。参加者は会員10名、その他OB含め18名。本部委員含め総数29名。例年に比べ、少人数での開催となったが、おちばのにをいを感じられる実りある総会となった。28日10時より開会し、会員一同心を揃えて十二下りのおつとめを

つとめさせていただいた。今回は例年と違い、てをどりの総立ちとした。少年会や婦人会の皆さんに鳴物をお手伝いいただき、にぎやかなおつとめとなった。総会式では大教会長様にご祝辞を頂き、青年会長 中山大亮様より御告辞としてメッセージ動画を頂いた。大亮様は、青年会の基本方針である「心を澄ます毎日を。くほこりを減らし、誠を増やす」について、お話くださった。その後、青年会本部よりお越しくださった鈴木委員にお話していただいた。鈴木委員は自身の体験談を交えながら青年会の基本方針より「かしまの かりもの」のお話と10月25日に開催される本部総会のテーマである「たすかり」についてお話くださった。昼食後は、神殿にて「教えに基づく対話」を行い、二人一組で対話し、自分の信仰を見つめなおすいいきっかけとなった。その後、「岩見沢温泉なごみ」へ向かい、一日の汗を流し、後夜祭に向けて心身ともに整えた。18時より大教会食堂にて鈴木委員、大教会長様にも参加していただき、盛大に後夜祭を行った。後夜祭では、鈴木委員を囲み、時間を忘れる程、たくさんお話させていただきました。企画として、クイズ



(3ページより続き)
大会を行い、優勝した鈴木委員には豪華景品が送られた。恒例行事であるビンゴ大会も行い、委員長セレクションの豪華賞品を手によく熱戦が繰り広げられた。
今回の総会は家族での参加が多く、にぎやかでアットホームな総会となり、鈴木委員にも夕張分会の雰囲気を楽しんでもらえた。鈴木委員のお話から教えをより深く考えるきっかけとなり、実りある総会となった。
今年の青年会本部総会は、秋季大祭前日の10月25日13時より開催される。「たすかり」をテーマにし、身近な人へのたすかりを願っておちばへ帰ってほしいと呼びかけをしている。ぜひたくさんの会員の方におちばへとかえってもらいたいと思う。
(高橋悟志)

婦人会夕張支部 第50回記念総会

6月22日、天理教婦人会夕張支部第50回記念総会が開催され、会員89名、少年会員29名、男性21名、総勢139名が参加した。

総会には、大教会長をはじめ、前支部長、役員ら5名の来賓が臨席。よろづよ八首まなびの総立ちが始まった。

総会式では婦人会本部からの祝辞を藤田美由紀支部長が代読し、そのまま挨拶に立った。支部長は「50回目の記念の総会という節目に巡り合わせて頂いた喜びと、これまで苦勞の道中を歩んで下さった先人先輩方に深く感謝しつつ、歩んでこられた道を繋いでいきたい」と挨拶した。

続いて、大教会長より祝辞が述べられ、婦人会本部の活動方針に触れつつ、ある部内教会長夫人のおたすけの実例を紹介。「たとえ病室のカーテン越しに、声を殺しておさづけを取り次いだとしても、誠の心に親神様は御守護をお見せ下さる。」と話された。

誓いの言葉では、長沼委員部千葉津恵子委員長部長が「親神様のご守護に感謝し、教祖に凭れながら、教えに沿って心を育て、身近な所からおたすけの心を伝えていきたい」と力強く宣言。その後、婦人

会歌斉唱で締めくくった。

記念行事では、50年の歩みを振り返る約20分の記録、インタビュ映像が上映され、先人の足跡に思いを馳せるとともに、次代への継承を誓い合った。また、記念催事として抽選会が行われ、子どもたちがくじを引いて景品を手にする場面では、特に1位・2位の景品であるお米ななつぼしが当たった際に会場が大きく沸いた。さらに、有志の委員部長による手話パフォーマンスとして、由仁委員部長が中心となり童謡「七つの子」が披露され、温かな雰囲気にも包まれた。

記念撮影後、お弁当、お下がり頂き、後片付けのひのきしんを行い和やかに散会した。

「総会開催に至るまで、準備、また当日参加し、協力して下さいました皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。」(藤田支部長)



6月19日
裏物置の地下部撤去、整地



6月25日
回廊ひのきしん

にいがけ実動について

◇活動報告

日時：6月29日 10時～15時

場所：夕張大教会、千歳市

参加人数：2名

内容：神名流し(大教会前交差点)、戸別訪問(千歳市、10軒)

◆次回以降実施予定

日時：7月19日 10時～15時

8月23日 10時～15時

集合場所：夕張大教会

庶務部 6月

▽おさづけの理拝戴 6.12

▽長谷川明子 (直轄)

▽佐藤 心元 (上富良野)

▽修養科一〇〇六期修了 6.27

▽長谷川明子 (直轄)

▽佐藤 心元 (上富良野)

▽藤崎 利男 (旭都)

▽教人資格講習会・前期 6.27～7.1

▽本田 栄治 (馬追)

▽詰所ひのきしん

▽梶川 本文 (新生生) 6.22

▽梶川 文吾 (新生生) 6.28

▽山根 直樹 (善進道) 6.29

▽詰所教養掛

6月 岩佐 善昭 (志加ノ谷)

7月前半 富山真理子 (栗山)

後半 千葉 祐生 (大龍)

▽育成基金 祝梅・幌都

大教会日誌抄 6月

1日 たすけ推進会議、役員会議

第4回ようばく一斉活動日

4日 会長、組例会

8日 会長、信者7年祭

9日 会長、葬儀(10日)

14日 月次祭準備

15日 月次祭、縦の伝道講習会

19日 会長、札分へ

境内地整理ひのきしん、21日

22日 婦人会夕張支部第50回記念総会

23日 会長、おちばへ

24日 会長、本部神殿当番

26日 本部長、遥拝式

27日 会長、かなめ会、帰会

28日 青年会夕張分会総会、会長夫人、帰会